

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城山中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 35人

② 算数 35人

5 留意事項

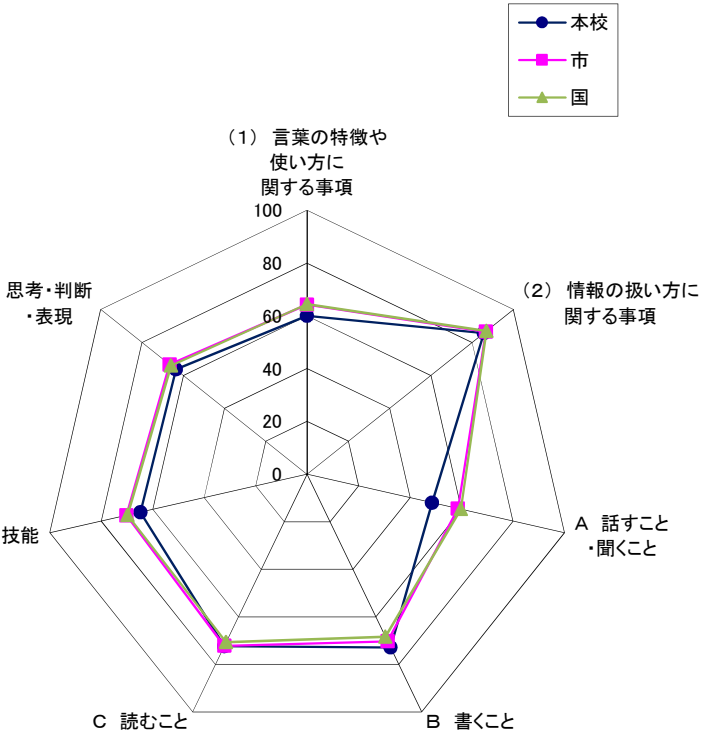
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山中央小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	60.0	64.2	64.4
	(2) 情報の扱い方にに関する事項	85.7	86.6	86.9
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	62.9	77.6	74.6
	A 話すこと・聞くこと	48.6	58.6	59.8
	B 書くこと	72.9	70.3	68.4
	C 読むこと	72.4	72.2	70.7
観点	知識・技能	64.8	70.2	69.8
	思考・判断・表現	63.6	66.6	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

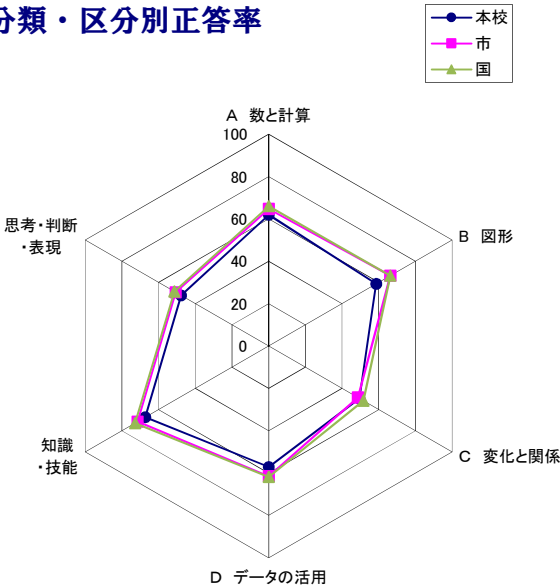
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	●平均正答率は60%で、市の平均を4.2ポイント、国の平均を4.4ポイント下回った。 ○既習の漢字に書き直す問題で、2問中1問は正答率が80%と市や国の平均を上回った。 ●文の中の主語として適切なものを選択する問題で、平均正答率が57.1%と市の平均を7ポイント、国の平均を5.2ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基本的な言葉の学習や漢字の練習を、授業の時間だけではなく、家庭学習でも取り入れ、確実に定着できるようにしていく。また、児童の状況に応じて、より発展的な学習に取り組めるように、個に応じた指導の充実を図る。 ・文の中における主語と述語との関係を捉え、話し言葉と書き言葉の違いに気付くことができるよう、文章を読み取る際には確認をする時間を意図的に設けていく。特に話し言葉と書き言葉では、日常の会話の中で相手に伝わりやすい言葉かけを意識できるようにしていく。
(2) 情報の扱い方にに関する事項	●平均正答率は85.7%で、市の平均を0.9ポイント、国の平均を1.2ポイント下回った。 ○無回答率は0%であった。	・メモなどに書かれた情報を見て、どのような内容が書かれ、語句と語句との関係はどのように表されているのかについて確認しながら授業を進めていく。また、情報の中から適切な図表や語句を読み取り、活用していくことができるように、引き続き指導していきたい。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	●平均正答率は62.9%で、市の平均を14.7ポイント、国の平均を11.7ポイント下回っている。	・日常的に読書に親しみ、読書の記録の記入や家読、ビブリオバトルなどで、教師や友達同士で読んだ本の感想などを共有する時間を設けている。引き続き、読書をすることによって自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができるよう、支援していく。
A 話すこと・聞くこと	●平均正答率は48.6%で、市の平均を10ポイント、国の平均を11.2ポイント下回っている。 ○無回答率は0%であった。 ●メールの内容を受けてどのように整理したのか選択する問題では、本校の平均正答率が45.7%で、市の平均を16.1ポイント、国の平均を16.8ポイント下回った。	・1分間スピーチや授業の発表の際には、事前に自分の意見や思いをノートなどに書いて準備をしておくことで、自分の考えを相手に伝えることが苦手な児童も安心して発表できるようにする。 ・少人数の話し合いや学級全体の意見交換の場を意図的に設定し、目的に応じた話し合いができるように指導していく。
B 書くこと	○平均正答率は72.9%で、市の平均を2.6ポイント、国の平均を4.5ポイント上回っている。 ○メモを基に適切な文章を考えて選択する問題では、本校の平均正答率が65.7%で、市の平均を6.4ポイント、国の平均を9.1ポイント上回った。	・自分の考えが相手に伝わるように、目的や意図に応じた書き表し方を工夫し、分かりやすい文章を書けるように今後も引き続き指導していく。 ・日頃から学校行事の感想などを文章に書き表す活動を多く取り入れることで、書くことへの抵抗を減らし、慣れさせていく。
C 読むこと	○平均正答率は72.4%で、市の平均を0.2ポイント、国の平均を1.7ポイント上回っている。 ○何に着目している文章なのか読み取る問題では、本校の平均正答率が77.1%で、市の平均を3.7ポイント、国の平均を4.6ポイント上回った。	・物語を深く読み取り、登場人物の人物像や心情などについて、描写を基に捉えたり想像したりすることができるよう、授業の工夫・改善を引き続き図っていく。 ・より一層読書活動を推進して、読む力を高められるようにする。

宇都宮市立城山中央小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	61.9	64.7	66.0
	B 図形	58.6	66.3	66.3
	C 測定			
	C 変化と関係	49.5	48.7	51.7
	D データの活用	57.1	61.5	61.8
観点	知識・技能	67.3	71.4	72.8
	思考・判断・表現	47.8	50.7	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	●平均正答率は、県の平均より2.8ポイント低い。 ○問題文から数量関係を捉え、折り紙の枚数を式に表す問題では、正答率が県の平均より10.6ポイント高い。 ●わる数が小数の場合のわり算では、商を正しく求められた児童の割合が51.4%で、県の平均より14.5ポイント低い。 ●問題文や表などに示された情報から、桜の開花日を予想する問題の平均正答率は42.9%で、県の平均より5.4ポイント低い。	・場面をイメージしやすくするために、線分図などを用いて図式化して考えることが、定着してきている。今後も重点的に指導していき、発展的な問題にも段階的に取り組ませることで、習熟を図っていく。 ・Aドリルやプリントなどを活用し、朝の学習や宿題等で定期的に計算問題に取り組ませ、基礎基本の定着を図る。 ・複数の情報の中から必要なものを取り出して、問題を解決していく設問では、無回答の児童の割合が高かった。知識や技能を活用して問題解決するための過程を、具体的に示しながら、学習活動を行っていく。
B 図形	●平均正答率は、県の平均より7.7ポイント低い。 ●円柱の展開図から側面の横の長さを求める問題では、平均正答率は県の平均より12ポイント低い。 ●角柱の面の数を、底面と側面に着目して説明する問題では、平均正答率が県の平均より8.8ポイント低い。 ●球の直径を用いて、立方体の体積を求める問題の平均正答率が34.3%で、県の平均より2.3ポイント低い。	・角柱や円柱の展開図をもとに、側面と底面の関係を再確認させるなど、立体の性質や特徴についての理解を深めるための問題演習や指導を継続していく。 ・球の直径と立方体の一辺の関係を捉えて体積を求める問題では、正答率が低く、無回答の割合も高い。関連する既習内容に遡り、2つの立体の特性を確認していくことで、問題解決につなげていく。
C 変化と関係	○平均正答率は、49.5%で、県の平均を0.8ポイント上回っている。 ○速さの意味を理解しているかをみる問題では、平均正答率57.1%で、県の平均より7.1ポイント高い。 ●速さをもとに、道のりと時間の関係を考える問題では、正答率が65.7%で、県の平均より2.2ポイント低い。 ●道のりが等しい場合の速さを比較し、どちらが速いが判断し、その理由を書く問題では、県の平均より2.4ポイント低い。	・道のりと速さ、時間のそれぞれの関係を公式図を用いて考えることを習慣化させ、立式のときのつまづきをなくすように指導を継続する。 ・複数の情報を整理して、速さや時間などを求める発展的な問題では、図式化しながら解決の見通しが立てられるよう指導を継続し、習熟を図る。
D データの活用	●平均正答率は57.1%で、県の平均より4.4ポイント低い。 ○簡単な二次元の表から必要なデータを取り出し、分類整理する問題では、正答率は77.1で、県の平均より3.8ポイント高い。 ●折れ線グラフからさくらの開花日についての必要な数値を読み取り、条件に沿って違いなどを説明する問題では、県の平均正答率より3.8ポイント低い。 - また、無回答の児童が20%を占めており、高い割合になっている。 ●円グラフから割合を読み取る問題では、68.6%と、市の平均より、12.5ポイント低い。	・記述問題では、適切な説明の仕方が思い浮かばないため、無回答になる児童の割合が高い。取り組み易い教材を工夫し、目的に応じたデータを使って、その特徴や傾向を分析できるように支援していく。また、問題に対する結論について、分かりやすく説明するための手順を示しながら定着を図っていく。 ・円グラフの特徴を確認した上で、グラフを正しく読み取れるように定期的に問題に取り組ませることにより、グラフの問題に対する抵抗感を少なくし、定着を図っていく。

宇都宮市立城山中央小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」では、全ての児童が肯定的回答をした。また、「自分にはよいところがあると思いますか」では97%、「将来の夢や目標をもっていますか」では94%の児童が肯定的回答をしていた。自己肯定感の高まりが感じられ、その結果として周囲のために行動したいと感じられるようになったと考えられる。引き続き、児童が自分のよさを実感できるような学級の雰囲気づくりや、教育活動を進めていきたい。

○「学校に行くのは楽しいと思いますか」の肯定的回答割合は91%で、さらに「友達関係に満足していますか」においては93%が肯定的回答をしていた。学校生活の中で、友達と関わることの喜びや楽しさを実感している児童が多いためであると考えられる。今後も児童同士が関わりながら生活できるような取り組みを行っていきたい。

○「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」では、全ての児童が肯定的回答をした。また「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」では、94%の児童が肯定的回答をした。児童は教科学習の重要性を実感できていることがうかがえる。

○学校の学習におけるICT機器の活用について、「自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」「分からないことがあった時に、すぐに調べることができる」「楽しみながら学習を進めることができる」「画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる」「友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」の質問項目で肯定的回答が県の平均を上回った。児童がICT機器の有用性を実感していると考えられるため、今後も継続して活用していきたい。

●学校の授業時間以外におけるICT機器の活用についての質問項目では、「30分より少ない」と回答する児童の割合が県の平均と比べ24ポイント上回った。その一方でスマートフォン等によるゲームやSNS、動画視聴の時間については「4時間以上」の児童が県の平均を上回っていた。デジタル機器を学習のために活用するという考え方の定着がなされていないことがうかがえるため、家庭でも学習のためにICT機器が使われるような取り組みを行ってきたい。

●「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問では、1時間未満と答えた割合が県の平均よりも25ポイント高く、家庭学習の時間が少ない児童が見られる。家庭学習について、児童自身の学習に対する意識が低いいため、家庭と連携を取りながら指導していく。

●「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」では、児童の肯定的回答が、県の平均より8ポイント下回った。宿題や課題を行うことができて、自分で学び方を選んだり、考えたりすることに慣れていないと考えられる。今後は、主体的に学習に取り組めるように、学習の見通しや振り返りに重点を置きながら、児童が自分で学び方を考えて学習を進められるような支援を行ってきたい。

●「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えが上手く伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」では、「考えを発表する機会がなかった」と回答する児童が、県の平均を9ポイント上回った。ペアや小グループでの考えの伝え合いや、ICTを活用した学級全体での意見共有などを積極的に行ってきたが、教師の指導と児童の感じ方にズレがあるように考えられる。今後は、児童が自分の考えを発表する機会を児童が自覚し、その場面で話し方や文の組立て方などを意識できるように指導の方法を工夫していきたい。

宇都宮市立城山中央小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・互いに認め合い、主体的に学ぶ児童の育成	・「居がい、やりがい、学び合いを目指した算数指導」の校内研修の充実 ・一人一授業等による「分かる授業」の研究実践 ・『城央小スタンダード』に基づいた授業の展開の研究 ・望ましい学級集団作りと学級活動の充実 ・児童の実態把握と成就感の達成への支援	・「学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり新たな考え方に気付いたりすることができている。」では、肯定割合が88.5%、「先生は、あなたのよいところを認めてくれている。」では、94.3%であった。 ・「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。」では、80%の児童が取り組めている。
・基礎的基本的な学力の獲得	・AIドリルや朝の学習時間の充実による基礎・基本の学力の定着 ・算数について4年生以上の学年で習熟度別学習の実施 ・パソコンや辞書などの活用の充実 ・「書くこと」を意識した授業の展開の工夫 ・漢字・計算検定の実施 ・家庭学習の習慣化 ・「家庭学習強化週間」の年2回の実施 ・「ぐんぐん学習だより」発行による家庭との連携	・国語の「書くこと」と「読むこと」で市の平均より高い結果となった。 ・算数の「変化と関係」では市の平均より高い結果となった。 ・国語の「我が国の言語文化に関する事項」と「話すこと・聞くこと、算数の「図形」に課題が見られる。 ・家庭での学習時間については、「1時間以上（平日）」学習している児童は30%程度である。また、「全くしない。30分以下（平日）」が34.3%、休日では「全くしない。30分以下（休日）」が65.7%であった。学習習慣が身に付くように引き続き指導をしていく必要がある。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
基礎・基本の学力が十分ではない。	・今年度行っていることに加えて、前学年の復習を取り入れた朝の学習や宿題の充実を図る。	・児童の実態により、宿題においても、前の学年の復習を取り入れるなど工夫をする。